

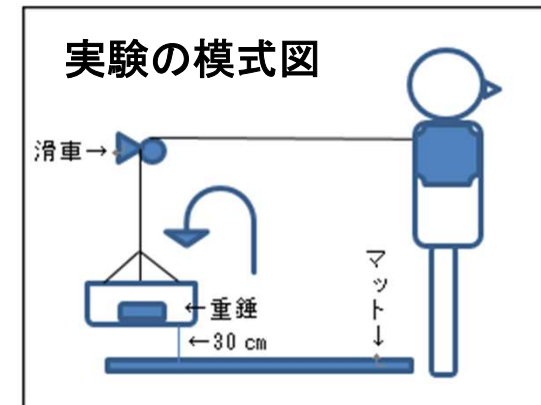
【研究種別欄, この欄は担当が修正する可能性があります】

(1) 加齢に伴う立位外乱負荷時の姿勢応答の変化

—パーキンソン病の姿勢反射障害の病態生理解明に向けて—

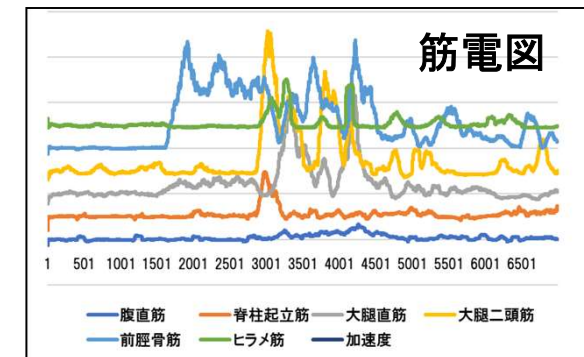
理学療法学科 神成一哉

背景・目的 高齢者の立位保持能力の低下は転倒の大きな原因であるが、定量的評価法がない



方法

1. 対象: 健常若年者15名と健常高齢者15名
2. プルテストを模した方法で, 立位保持能力を定量的に評価する
3. 外乱負荷時の体幹・下肢の筋活動を調べる



成果

- ステッピングを生じる最小負荷モーメントは若年者と高齢者で有意差なし
- 下肢・体幹筋の筋活動開始順序は一定の傾向なし
- 最大筋活動までの時間は高齢者で有意に延長

